

西田雅昭
の

新

Visual Basic!

西田 雅昭
NISHIDA, Masaaki

基本からの
業務アプリケーション構築技法

第2回

データ型、変数、 数値演算のポイント



はじめに

前回は、第1回ということでプログラミング環境を整えました。今回は、いよいよプログラミングです。プログラミングを行なう際に、最初に必要となるのは、「データ型」と「変数」の使い方でしょう。そこでまずは、データ型と変数、そして数値演算についてお

話します。

なお、本連載では Visual Studio 2005 Professional を使用していますが、解説内容は特に明記しない限り、Visual Basic 2005 Express でも利用できます。Express Edition をお持ちの方もぜひ挑戦してみてください。

参考

本稿では、以下の環境設定（「オプション」ダイアログボックス）を行ない、Visual Studio を使用しています。

- ①「作成時に新しいプロジェクトを保存」しない
- ② Option Strict On
- ③ 行番号を表示



データ型で 知っておくべきこと

Visual Basic 2005（以下 VB2005）では、データ型が Visual Basic 6.0 の時代

とはだいぶ変わりました。まず表にしておきましょう（表1）。

この表の「VB」は Visual Basic 言語の型名を表わし、「CLS（Common Language Specification）」は共通言語仕様の型名すなわち .NET Framework が提供するクラス（構造体）の名前を表わしています。

ですから、

```
Dim intKazu As Integer  
Dim intKazu As Int32
```

という2つの宣言は同じ意味を持ちます。C#などの他の言語でも共通して使えるうえ、メソッド名などでも使われていて統一性があることなどから、後者（CLS）の型名を使ったほうがよいかもしれません。

以降で、各データ型のポイントについて簡単に説明していきます。

レベル >>> Level

1

2

3

4

5

言語 >>> Language

▪ Visual Basic

ツール >>> Tool

▪ Visual Studio 2005 Professional
▪ Visual Basic 2005 Express

